草津白根山 火山ハザードマップ

草津白根山は活火山です。
山に向かうときには、最新の情報を確認しましょう。

←草津町の立入規制情報を確認できます

↑QRコードリーダで読み取ると、気象庁の登山者向け情報ページを確認できます。青は白根山(湯釜付近)赤は本白根山の情報です。

このマップは、登山者・観光客や住民の皆様に、草津白根山の過去の噴火や今後起きる可能性のある火山現象と危険区域をお知らせし、安全に草津白根山のみどころ、よいところを楽しんでいただくために作成しました。

このマップに関するお問い合わせ・緊急時の連絡先

山ノ内町役場 0269-33-3111（代）	高山村役場 026-245-1100（代）	嬬恋村役場 0279-82-1293（代）
草津町役場 0279-88-3131（代）	長野原町役場 0279-82-2244（代）	中之条町役場 0279-75-2111（代）

噴火に遭遇したときは

噴火場所の近くにいるときは　逃げる！　かくれる！
噴火場所を確認し、遠ざかるよう速やかに避難しましょう。

2000年三宅島噴火時の火砕流

1. 火口の周辺を歩いていたら、とつぜん噴火した！

ただちに逃げましょう！来た道を、噴火場所から遠ざかる方向へ避難しましょう。
噴煙が見えたり大きな音が聞こえたらすみやかに近くの避難壕に入りましょう。
間に合わないときは大きな石や木の根元にうずくまって頭を守りましょう。噴火は勢いの激しいときと弱まるときを繰り返すことがあります。弱まったときにもっと離れた場所、頑丈な建物へ避難しましょう。

火口の周辺には、いろいろな避難壕が設置されています。

2. やまみちの途中で写真を撮っていたら、とつぜん噴火した！

写真を撮るのをやめて、すみやかに車に戻って山を下りましょう。
火山灰が降ってくると、路面がすべりやすくなります。
フロントガラスに灰がついて視界が悪くなったときは、タオルやほうきではたき落としましょう。火山灰は細かく砕けたガラスや石なので、ワイパーで傷ついたり、水に濡れてセメントのようになることがあります。

火山ガスが出ている場所は危険ですから、ふだんでも車を停めないようにしましょう。

スマートフォンや携帯電話で、右上のQRコードを読み取ると火山の情報を確認できます。

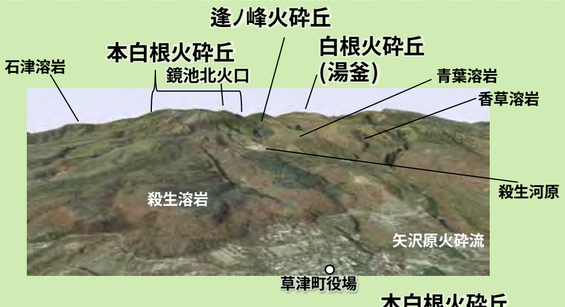
3. まちにいたら、近くの山が噴火して火山灰が降ってきた！

頑丈な建物のなかに避難しましょう。
数km離れていても風向きしだいで、数センチメートルの小さな石が落ちてくることがあります。車のガラスが割れたり建物が壊れた事例があります。
火山灰を吸わないように、灰のついた手で目をこすらないように注意しましょう。

草津白根山のなりたちと近年の噴火

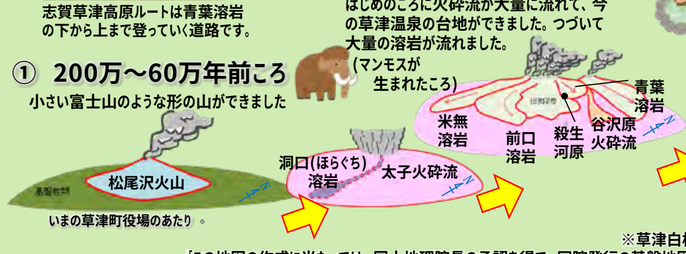
草津白根山は、白根火砕丘、本白根火砕丘など、いくつかの火山の総称です。60万年前ころから3千年前ころまでにかけて、大きく３回の噴火活動期を経て現在のかたちになりました。

記録に残る噴火は、西暦1805年から現在までに少なくとも20回あり、2018年1月の本白根山からの１回を除くとすべて湯釜の周辺で起きた水蒸気噴火でした。噴火で開いた湯釜には水がたまり、火山ガス成分のために青白い独特の色をしています。また、本白根火砕丘は緑で覆われていますが、繰り返し粘土質の火山灰が降り注いだ湯釜付近の斜面には植生が育たずに荒涼とした活火山ならではの風景が広がっています。



志賀草津高原ルートは青葉溶岩の下から上まで登っていく道路です。

写真右の湯釜周辺は粘土質の火山灰が積もり、荒涼とした風景となっています。



※草津白根火山地質図(産業技術総合研究所，1983)、早川・由井(1989)等を参考に作成しました。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報及び電子地形図（タイル）を使用した。（承認番号　平３１情使、第●●●●号）」。

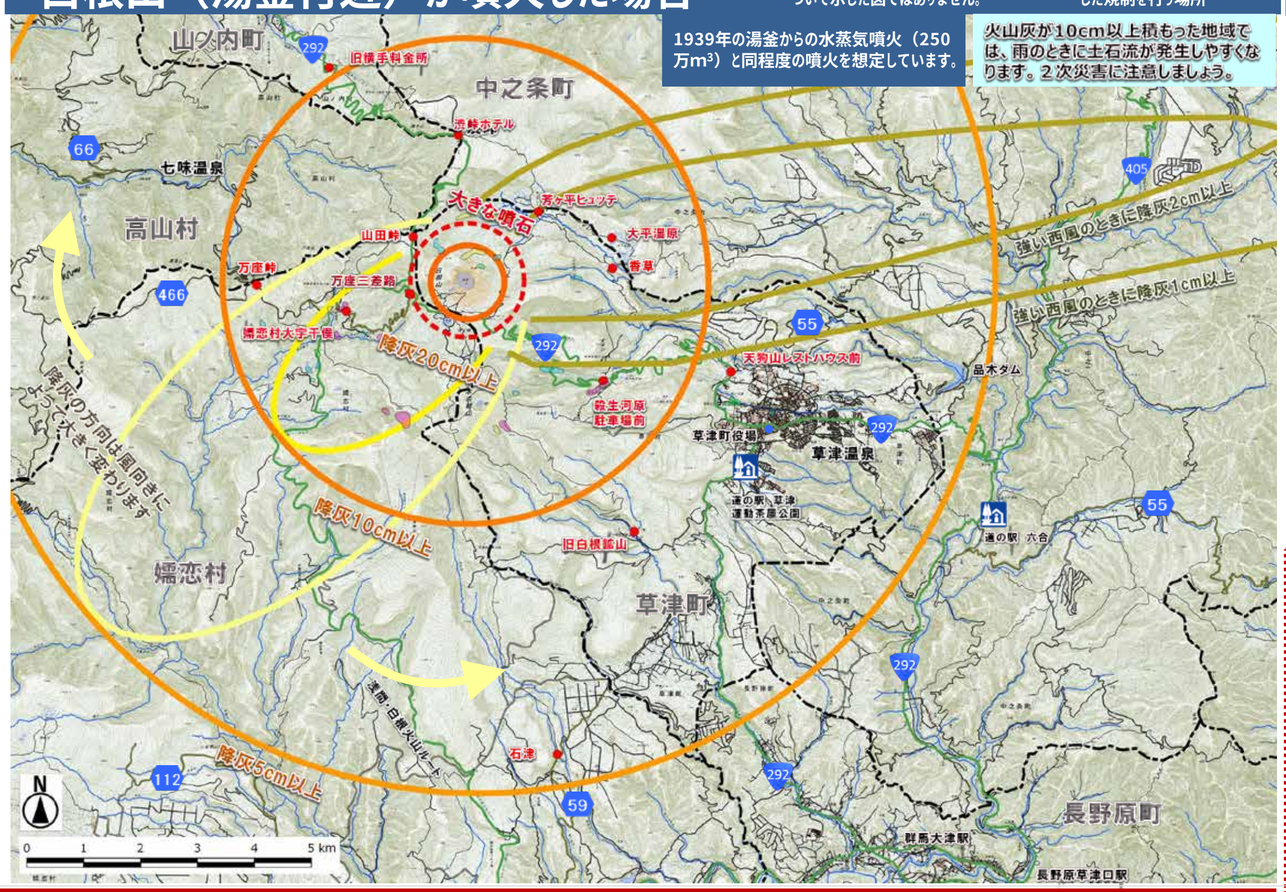
白根山（湯釜付近）が噴火した場合

気象庁の発表する「噴火警戒レベル」について示した図ではありません。

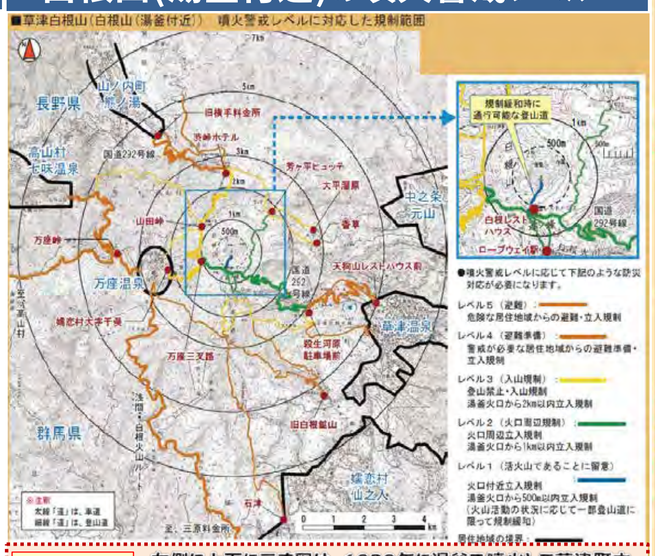
噴火警戒レベルに対応した規制を行う場所 ●

1939年の湯釜からの水蒸気噴火（250万m³）と同程度の噴火を想定しています。

火山灰が10cm以上積もった地域では、雨のときに土石流が発生しやすくなります。２次災害に注意しましょう。



白根山(湯釜付近)の噴火警戒レベル



想定条件と凡例

左側に上下に示す図は、1939年に湯釜で噴火して草津町内に火山灰を6cm降らせたときと同程度(250万m³)の水蒸気噴火を想定したものです。

大きな噴石
直径1mくらいの岩塊が落下する恐れのある区域
風に流されずに、弾道を描いて放出されます。火口から全方向に短時間で飛散して、建物の屋根を打ち破るほどの破壊力があります。

火山灰・レキの降下
2mm以下の火山灰やこぶし大のレキが、10km以上遠方まで風に流されて降下する場合があります。

強い西風のときの火山灰の積もる範囲
- 火山灰が10cm以上降り積もる恐れのある区域
- 火山灰が5cm以上降り積もる恐れのある区域

高層の風が弱いときに火山灰が積もる恐れのある範囲と厚さ(cm)

火砕流
御嶽山2014年噴火時の火砕流を想定してシミュレーションした結果
火山灰やレキ、火山ガスなどからなる噴煙が斜面を爆風として流れくだる現象で、車より速く移動し、破壊力の大きな危険な現象です。

予報警報	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●溶岩流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 過去事例 有史以降の事例なし 約18,000年前：白根山で噴火。溶岩流が東側約５kmの元山近くまで到達 ●山頂火口から噴火が発生し、概ね３km以内に大きな噴石飛散、あるいはそのような噴火が切迫している。 過去事例 有史以降の事例なし
		4（避難準備）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。	●噴火活動の高まり、有感地震多発や顕著な地殻変動等により、大きな噴石や溶岩流が居住地域まで到達するような噴火の発生が予想される。 過去事例 有史以降の事例なし
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備等。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●山頂火口から噴火が発生し、半径２km程度まで大きな噴石が飛散、あるいは湯釜火口壁決壊に伴う泥流の発生。 過去事例 有史以降の事例なし
	火口周辺	2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。	●山頂火口から小噴火が発生し、半径１km程度まで大きな噴石が飛散。 過去事例 1983年11月：噴石が湯釜火口から約550mまで飛散 1932年10月：南東斜面で割れ目噴火 1902年９月：弓池北東岸から噴火 1882年８月：噴石が湯釜・湯釜火口から約650mまで飛散 ●地震多発等により、小噴火の発生が予想される。 過去事例 1990年～1991年：火山性地震や火山性微動の多発 1976年３月：水釜火口内に新火孔形成、降灰
噴火予報	火口内等	1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏、状況により山頂火口内及び一部火口外に影響する程度の噴出の可能性あり。 過去事例 1997年５月：噴気噴出、水柱 1989年１月：火山性微動、湯釜変色 1987年10月：火山性地震多発

注１）山頂火口とは白根山の湯釜火口、水釜火口、湯釜火口および水釜火口およびその周辺をいう。表中の距離は、湯釜火口の中心からの距離で表現しているが、湯釜火口以外で噴火等が発生した場合には保全対象までの距離を考慮した上でレベルを決定する。
注２）ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに飛散する大きさのものとする。
注３）噴火警戒レベルは、火山ガスに関する規制とは異なる。
注４）レベル５では危険範囲を確定していない。今後、ハザードマップ検討会で具体的な検討を進め反映させる予定。
各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。各市町村にお問い合わせください。
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

気象庁 Japan Meteorological Agency 平成30年3月

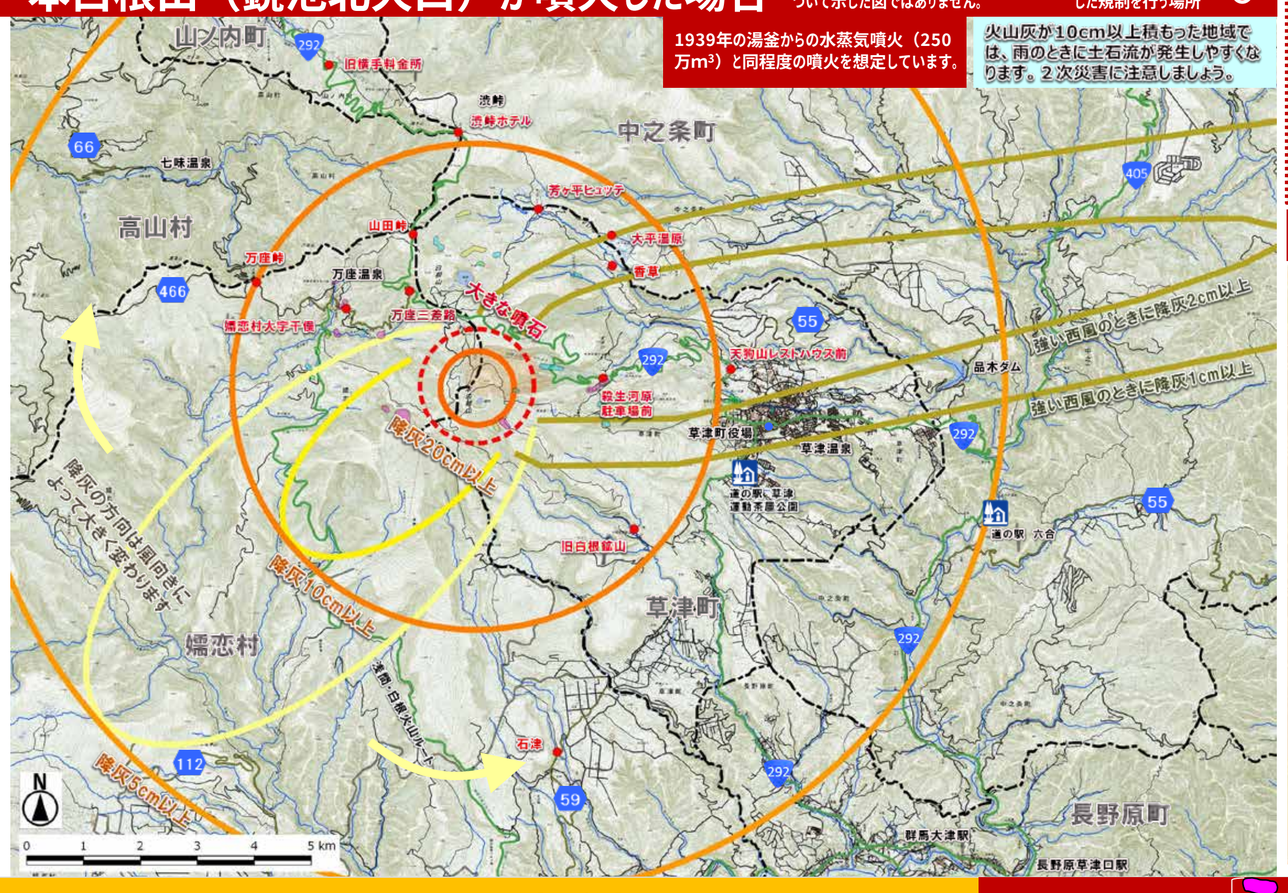
本白根山（鏡池北火口）が噴火した場合

気象庁の発表する「噴火警戒レベル」について示した図ではありません。

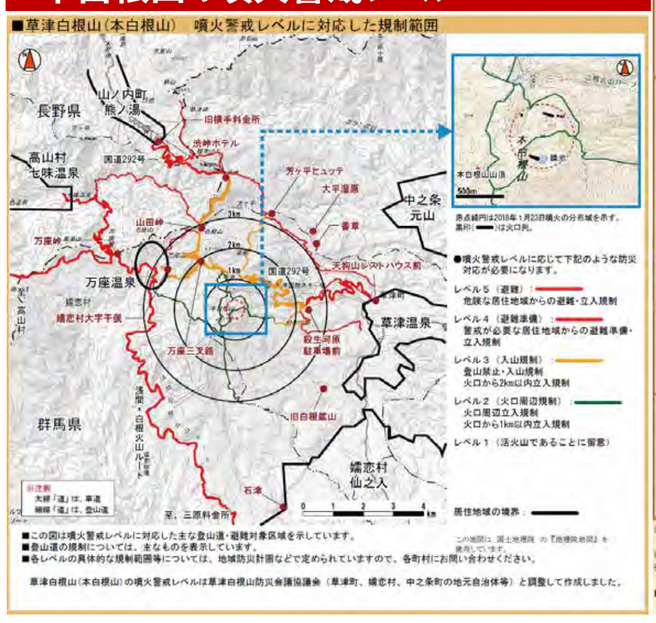
噴火警戒レベルに対応した規制を行う場所 ○

1939年の湯釜からの水蒸気噴火（250万m³）と同程度の噴火を想定しています。

火山灰が10cm以上積もった地域では、雨のときに土石流が発生しやすくなります。２次災害に注意しましょう。



本白根山の噴火警戒レベル



予報警報	対象範囲	レベル(キーワード)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5（避難）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●溶岩流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 過去事例 有史以降の事例なし 約3,000年前：本白根山で噴火。溶岩流が南側へ約６kmの石津まで到達 ●火口から噴火が発生し、概ね３kmまで大きな噴石が飛散、あるいはそのような噴火が切迫している。 過去事例 有史以降の事例なし 約3,000年前：本白根火砕丘形成、殺生河原まで噴石飛散
		4（避難準備）	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される（可能性が高まっている）。	警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。	●噴火活動の高まり、有感地震多発や顕著な地殻変動等により、大きな噴石や溶岩流が居住地域まで到達するような噴火の発生が予想される。 過去事例 有史以降の事例なし
火口周辺警報	火口から居住地域近くまで	3（入山規制）	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。状況に応じて要配慮者の避難準備等。 登山禁止・入山規制等危険な地域への立入規制等。	●火口から概ね２kmまで大きな噴石が飛散する、あるいは居住地域近くまで火砕流が到達するような噴火の発生またはその可能性。 過去事例 有史以降の事例なし
	火口周辺	2（火口周辺規制）	火口周辺に影響を及ぼす（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活。 火口周辺への立入規制等。	●火口から概ね１kmまで大きな噴石が飛散する噴火の可能性。 過去事例 有史以降の事例なし ●火口から概ね１kmまで大きな噴石が飛散する噴火の発生。 過去事例 2018年１月23日：噴火により火口から約１kmの範囲に噴石飛散
噴火予報	火口内等	1（活火山であることに留意）	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる（この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ）。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火山活動は静穏。

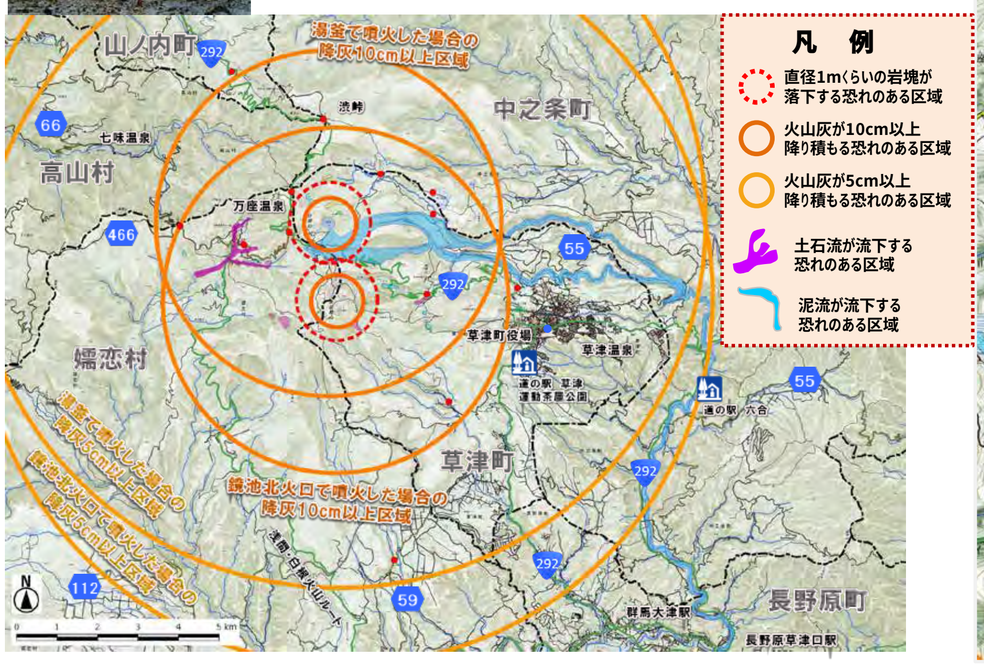
注１）ここでいう「火口」とは、2018年１月23日に発生した噴火の火口が分布する領域をいい、表中の距離はこの領域の中心からの距離で表現している。
注２）ここでいう「大きな噴石」とは、主として風の影響を受けずに弾道を描いて飛散するものとする。
※このレベルは地元市町村等と協議して作成したものです。各レベルにおける具体的な規制範囲等については地域防災計画等で定められています。
■最新の噴火警戒レベルは気象庁HPでもご覧になれます。
https://www.jma.go.jp/jma/index.html

気象庁 Japan Meteorological Agency 平成30年3月

積雪期の爆発的な噴火で泥流が流れる場合

湯釜で爆発的な噴火が起きて湯釜南壁が決壊した場合、噴出物と熱水が一気に放出されて、泥流が谷筋を流下する恐れがあります。積雪期の場合にはさらに流下経路上の雪もとかすため、泥流量が大きくなります（200年に1度程度起きる恐れのある現象）。

下図はこの想定での泥流が流下する恐れのある区域を示しています。吾妻川の合流点までおよそ70分で到達すると想定しています。



現在の火山活動状況の下での火山ガスの危険区域
- きわめて危険
- 危険
- 要注意
- においを感じる程度

○ 噴火警戒レベルに対応した規制を行う場所

火口周辺拡大図

白根山(湯釜付近)、本白根山(鏡池北火口)が水蒸気噴火した場合